

令和4年度第1回平塚市文化振興懇話会会議録

【日時】 令和5年2月16日（木）14:00～15:30

【会場】 中央公民館 3階大会議室

【出席者】 構成員7名（敬称略） : 沖野成紀、丸島隆雄、平野恵美子、高橋浩也、
岩崎由紀子、加藤宏、今井高司
市職員4名（事務局） : 岸市民部長、柴崎文化・交流課長、
武井文化振興担当長、荒原主査
傍聴人 : なし

会議次第

1 開会

2 市民部長あいさつ

3 参加者紹介

4 座長・副座長の確認

前回から引き続き、座長（沖野氏）、副座長（平野氏）の継続が確認された。

傍聴人の確認

傍聴希望者がいなかったことを事務局から座長へ報告した。

5 議題

（1）平塚市の文化行政について

○事務局説明要旨

- ・資料（1）に基づき説明
- ・平塚市では市民部文化・交流課と教育委員会の社会教育部で役割分担をして文化行政に取り組んでいる。
- ・文化・交流課では、ひらしん平塚文化芸術ホールの管理運営のほか、文化情報誌の発行、平塚市文化振興基金の管理・活用、囲碁文化の振興や、まちづくり財団の文化事業への補助を行っている。

●文化情報誌たわわ

- ・平塚市にゆかりのある人・活動を、文化の観点から取り上げ、市民に紹介している。また、工芸や文化財をはじめ、音楽、美術、アート、ダンスの他、ホストタウンであるリトアニア共和国や姉妹都市であるローレンス市の紹介も取り上げている。

●小学校アウトリーチ事業

- ・市内小学校に、プロの演奏家を派遣して、身近なところで音楽に触れてもらっている。今年度は6校で実施予定で、既に4校実施済みである。

●平塚市文化振興基金

- ・市民文化の振興を図るために必要な長期的・安定的財源を確保するため、平成6年度に創設し、これまで435件、70,285,166円の寄付をいただいている。
- ・令和4年4月1日時点の基金残高は34,794,359円となっている。
- ・この基金は、小学校アウトリーチ事業、平塚市まちづくり財団と連携して実施する囲碁文化振興事業、文化振興補助事業等に活用している。

●囲碁のまちづくり

- ・平塚市にはかつて木谷實九段が開設した木谷道場があったことから、囲碁を本市の特色ある文化と位置づけ、平塚市まちづくり財団に委託し、年間を通して囲碁大会、囲碁教室等を開催し、囲碁文化の振興を図っている。今年度は台風や新型コロナウイルスまん延防止のために中止が続いていた「湘南ひらうか囲碁まつり」を4年ぶりに開催できた。その他の事業についても、子ども囲碁大会や女流棋聖戦大盤解説会、各種囲碁教室など概ね予定どおり開催した。

●公益財団法人平塚市まちづくり財団の事業

- ・文化芸術の振興を図るため、平塚市まちづくり財団に補助金を交付し、財団が普及振興事業を実施している。

●ひらしん平塚文化芸術ホールの運営

- ・令和4年3月26日に開館し、開館記念式典、開館記念公演やオープニングウィーク事業を実施した。令和4年度からは一般利用が開始され、多くの方に利用されるとともに、ホール主催の事業も多数開催し、市内外から多くの方が参加され、文化芸術の新たな拠点として様々な文化芸術の鑑賞・体験・発表の場として活用され、周辺の賑わいを創出している。詳細については次の議題で報告する。

○質問・意見等

構成員：数年前に将棋の団体が文化連盟に加入したいと申し出があったが、教育委員会とも協議したがお断りしたことがある。将棋は市のどこの部署が担当するのか。

事務局：当該団体は市内でも大きな将棋の大会を開催している団体で、文化・交流課でも大会開催の支援をしている。まちづくり財団でも将棋ワークショップなどを開催しており、囲碁だけでなく将棋についても側面的な支援を行っている。

構成員：小学校アウトリーチ事業は学校からの手上げ制か、学校を市が選んでいるのか。

事務局：全小学校に案内し手上げ方式で募集しているが、申込が多いため抽選となっている。

構成員：囲碁のまちづくりについて、観光協会でもPRをしてきた。最近の子どもたちの囲碁の成長状況、段位獲得状況などはどうか。

事務局：まちづくり財団に囲碁事業を委託し、子ども向けの囲碁教室や級位認定大会などを開催しているが、棋力の高い子どもたちが増えてきている印象である。

構成員：まちづくり財団では、子ども向け大会を年3回開催している。かなりレベルの高い中学生なども出てきている。高校生でも全国レベルで活躍する生徒が数人出てきていて、今年も大磯高校の生徒で財団の囲碁教室出身の方が、全国大会で好成績をあげている。囲碁界全体としても、中邑董さんが最年少タイトルを獲得して

話題になったが、その1回戦は平塚で実施されている。来年も平塚で同タイトル戦を開催予定である。

構成員：文化振興基金の寄附の件数がまだ少ない。以前にももっと呼びかけるように意見したがどうなっているか。

事務局：ホームページや文化情報誌でのPRの他、ホール主催事業での募金呼びかけなども実施している。今年度は大口の寄附もあり、件数は増えていないが合計額としては例年より多くご寄附頂いている。また、基金の資産運用は昨今の低金利の中で果実が少ないので、やはり寄附については増やしていかないといけないと考えている。

構成員：以前市の職員での経験からお話すると、昨今は寄附者の意向として子育て支援に寄附を活用して欲しいという方が多い。なかなか文化に寄附という声が少ない現状である。そういった点からもPRをするべきだろう。

構成員：事業で募金を呼びかけとあったが、4件の寄附の中には募金も含まれているか。

事務局：4件のうち1件が募金箱での募金である。

構成員：中学校では部活動の地域移行の問題が話題になっている。文部科学省でも少子化による部活動が立ち行かない点、教員の負担もあいまって課題とされている。まずは運動部の休日の活動を進めているが、同様のことが文化部でも検討されていて、部活動の地域移行についてどう考えていくかが課題である。教育委員会を中心に学校教育、社会教育で連携して検討を進めている。運動部については、中体連で検討しているが、文化芸術関係の部活動は組織だった団体がなく、今後各自自治体の地域ごとに検討していくことが必要だが、若手の文化振興という関連の中でもそういった話題があるのではないかと思っている。囲碁部が神明中学校にもあるが、以前は浜岳中学校、神明中学校、平塚中等教育学校で神奈川県大会の1, 2, 3位を独占したこともある。

この会でもいろいろな部門の代表者がおられるので、そういった面からもご支援いただきたい。

座長：女流棋聖戦の最年少タイトルのニュースを興味深く見ていたが、会場が平塚であったということは知らなかった。将棋では対戦会場などが話題になるが、囲碁はあまりそういった話題が聞かれない。平塚ではどこの会場だったのか。

構成員：市内の相模川沿いのホテルサンライフが会場である。やはりPRの仕方は工夫の余地がある。

構成員：以前、市内の各中学校がまとまって音楽会を実施していたが今はどうか。

構成員：各校の吹奏楽部が吹奏楽連盟の夏の大会に参加したり、10月に中学校音楽祭、各学校の文化祭、クリスマスコンサート、地区レクでの演奏などを行っている。

座長：これまでの意見をまとめる

- ①将棋の支援についての質問があった
- ②アウトリーチ募集方法に関する質問があった
- ③囲碁の子どもの状況についての質問があった
- ④文化振興基金への寄附を増やすべきとの意見があった
- ⑤囲碁を含めて、将来的な部活動の地域移行に対する意見があった

(2) ひらしん平塚文化芸術ホールの運営状況について

○事務局説明要旨

- ・資料(2)に基づき説明。
- 開館記念式典・開館記念公演
 - ・令和4年3月26日に、午後1時から開館記念式典を大ホールで開催した。
 - ・神奈川フィルハーモニー管弦楽団のファンファーレ演奏に合わせてのテープカット、主催者、来賓からの挨拶などを執り行い、本懇話会構成員でもある、岩崎由紀子先生に、「さくらさくら」と「市歌」の独唱で式典に華を添えていただいた。
 - ・同日に市民を無料招待して、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏による開館記念公演を、午後3時からと午後5時15分からの2回開催した。
 - ・ホール開館を祝う華やかなクラシック曲の演奏に加え、平塚ならではのプログラムとして、本市の七夕まつりに欠かせない「七夕おどり」を特別オーケストラ編曲で演奏していただいた。
- オープニングウィーク事業
 - ・3月27日から3月31日までの5日間に、無料で自由に参加できるプログラムを中心に、音楽、ダンス、伝統芸能、ワークショップ、体験、施設見学、展示、物販など30のイベントを実施した。
 - ・5日間合計で延べ15,270人と多くの方にご参加いただき、新しいホールの機能や魅力を知っていただくことができた。
- 令和4年度の利用状況
 - ・12月末時点での実績として、貸出施設の利用者数は、4月から12月の9か月で、累計で88,428人であった。
 - ・各施設の稼働率は、大ホールは61.0%、多目的ホールは60.1%、全施設平均では48.5%となっている。
- 令和4年度実施事業について
 - ・指定管理者が実施する事業には、市の指定管理料を充てて実施する主催事業と、指定管理者の自主企画としてチケット収入の責任を負う自主事業の2種類がある。
 - ・資料は12月末時点での参加実績を掲載している。

○質問・意見等

構成員：ホールの利用区分が使いにくいという声を多く聞く。他のホールは1日3区分が多いが、平塚は1日4区分となっている。例えば午後1時からコンサートをする、音響反射板の設置撤去に各1時間かかり、夜間区分も利用しないといけなくて、使いづらいということとなる。舞台設備や照明を使わない講演会などであればいいが、そういった設備を使うと4区分全部使わないといけなくなる。どこに提案すればいいか。

事務局：使用料、使用区分については、条例で決まっているもので、議会の議決を経ないと変更ができない。一部でそういった声があるということは承知しているが、ここで開館から1年が経つので、モニタリングしながら分析をしてみないといけないと思っている。必要があれば議会に変更を提案していくものであるが、それ相

応の理由やシステム改修などの費用も必要となるため、しっかりと利用者の声を聞いて検討していくものであると考えており、時間が必要という認識である。

構成員：最初に決めるときにしっかりと検討したのか。

事務局：相応に検討して議会に上程し、議決を頂いている。そういった声があるということとは確かなので、ご意見として受け止めてさせていただきたい。

座長：12月に定期演奏会でも利用させていただいたが、音響反射板は設置・撤去で合わせて80分くらいかかると言われた。その時間も使用時間に含まれて、音響反射板の設置・撤去時は舞台上は安全確保のため何もできない。他ホールより時間がかかる印象はある。例えば海老名や伊勢原のホールではそこまで時間がかかっていないと思う。設置・撤去の時間と、使用時間に含まれるという点は今後考慮してもらえるといい。

事務局：まだホールができて1年未満ということで、習熟が進めば作業時間を短縮できる可能性はあるかもしれない。

構成員：エントランスギャラリーの展示について、壁面が作れるようなパネルがない。パネルが少なく、そういったパネルを用意してもらえるといい。

事務局：ご意見として今後検討する。

構成員：今回の資料は、指定管理者が実施する事業を報告していただいているが、ホールでは貸館の事業も行われている。そういった事業も含めて1年間こんな事業があったという資料があるとよいと思う。これは過去の実績についてもそうだが、今後の予定についてもあるといい。ホールのホームページに掲載されているかもしれないが、分かりづらい。利用者から見て一目で分かる資料があるといい。懇話会での資料もそういった視点が加わるといい。

事務局：ホールの情報誌ミツカルでも当月の1か月の予定が掲載されているが、PRが足りないのかもしれない。デジタルでの発信についても検証していきたい。

構成員：できれば翌月ではなく、3か月とか半年先まで分かるといい。

事務局：情報の更新もあるのでタイミングが難しいが、できることを検討したい。

構成員：おそらく利用者でも載せてほしくない場合もあるだろう。ミツカルに載せる締切もあるのだろうと承知している。ホームページは更新の柔軟性が高いのでそういった発信で工夫をしてほしい。

事務局：ミツカルについては、掲載希望のあったものを掲載している。ミツカルは1か月単位での掲載であるが、先の情報をということなので、検討していきたい。

座長：ミツカルとは「見つかる」という意味か。

事務局：見附町という地域名とかけている。

座長：ミツカルはホールのホームページにも掲載されているか。

事務局：ホールのホームページではミツカルに掲載されている、貸館を含めたホールのイベントについてイベントカレンダーとして掲載されていて、数か月先のイベントも掲載している。ただ当該ページが見つかりづらいということはあるかもしれないので、工夫をするよう検討したい。

構成員：市民の方で練習する場所が無いという声を耳にする。このホールの大練習室、小練習室は69%、44%、41%という稼働率だが、それだけ空いているのであれば一般の方でも利用できるのか。

事務局：一般の方の利用も含めた稼働率となっている。

構成員：一般利用も含めての稼働率ということだと、少ない印象である。まだ知らない人も多いのではないか。

構成員：自分も小練習室を1回利用したが、予約時に空きがありすぐ予約できた。逆に言えばもっとPRしたほうがいい。

事務局：稼働率については、練習室も含めて事実として受け止めていきたい。PR不足や施設の使い勝手などを指定管理者とともに研究していきたい。

構成員：公共施設予約システムが少し使いづらい。結局窓口で予約するのが簡単である。若い人たちにはスマートフォンから簡単に予約できるようでないと感じづらいのかもしれない。

事務局：公共施設予約システムは、ホールだけでなくスポーツ施設などと一緒に使っているものである。使い勝手についてはご意見として受け止めさせていただく。

座長：これまでの意見をまとめる

①使用区分が細かすぎる、反射板の設置時間が長いというご意見があった

②展示用パネルの増設について要望があった

③ホールホームページの行事案内が見つかりにくく、掲載期間も3か月から半年までが望ましいという意見があった

④練習室の稼働率を高めるためのPRと予約システムの改善の意見があった

(3) 平塚市文化芸術振興計画の進捗状況について

・資料(3)、(4)に基づき説明。

●計画の進行管理と評価の体制方法

・市民等による進行管理として、「平塚市文化振興懇話会」を定期的で開催し、本計画に掲げる取組の進捗状況を報告し、意見を聴取する。

・庁内の進行管理としては、「平塚市文化芸術振興計画掲載事業進捗状況管理表」により、各年度の進捗状況を確認し、平塚市文化振興庁内検討会議で平塚市文化振興懇話会からの意見も踏まえて、本計画に掲げる取組の進捗状況や課題の共有を図る。

・市民等による評価として、計画の中間見直し時及び次期計画策定時に、市民アンケート調査を実施し、4つの成果指標を中心に本計画推進の効果を測定する。

・庁内での評価の反映として、市民アンケート結果を参考に、平塚市文化振興庁内検討会議において、中間見直し及び次期計画を策定する。

●令和4年度事業の進捗状況(中間報告)

・本日の資料では、令和4年度事業が終了していないため、11月末時点での中間報告として取りまとめている。

・来年度の文化振興懇話会では最終的な実績値が記載された進捗状況管理表を報告する。

○質問・意見等

構成員：進捗状況管理表で、同じ事業が何度か出てきて、記載内容も全て同じであるが
どうということか。

事務局：計画の基本目標や施策の方向、取り組み番号ごとに掲載をしているが、同じ事業
を再掲として掲載している事業がいくつかある。

構成員：NO.20の老人クラブの音楽教室は具体的にどんな内容か。

事務局：担当課に確認して個別に回答させていただきたい。(会議後担当課に音楽教室の内
容はコーラスであることを確認)

座長：進行管理について、来年度以降文化振興懇話会は何回開催か。いつの開催か。

事務局：10月と3月に開催を予定している。計画見直しや次期計画策定時は追加で開催
することもあるかもしれない。

構成員：計画の掲載事業は多くあり、文化の定義も広く多岐にわたる。計画を作るとその
効果を測定するものだが、計画の範囲が広いとその効果測定も難しくなると思う。
事務局の過度な負担にならない程度にうまくまとめていただきたい。

事務局：「ひらつか文化」として広く定義をしているため、多くの事業が掲載されている。
できる限り皆様に分かりやすくまとめていきたい。

構成員：NO.54で子ども教室があるが、どれくらいの参加があるか。

事務局：昨年度だと夏休み20人、春休み17人、通年は30人以上の参加がある。

構成員：会場の都合もあり、1つの会議室で可能な範囲で受け入れているのと、講師も1
名で対応しているため受入人数に限りもある。近年は感染対策もあり募集を減ら
している。ただ、児童数も減ってきているので参加人数が増えることもなかなか
難しい。囲碁の実行委員からは学校での囲碁教室実施や、日本棋院と連携してタ
ブレットでの囲碁の体験などができないかという声もある。実現できるかはわか
ないが。

構成員：部活動の地域移行とも関連するが、小学校で学んでも中学校で活動場所が限られ
るという状況もある。実際に囲碁部の部員も部活動として地域の方と対戦したり
するが、家で韓国の生徒とタブレットで対戦しているという事例も聞く。囲碁に
限らず、美術教室、陶芸教室といった教室が立ち上がるきっかけはどんなものか
あるのか。

構成員：文化連盟では、10年くらい前から子ども文化芸術教室というのを各小学校に向
けて公民館で実施している。授業ではやらないものをやろうということで、お茶
とか華道、奇術、琴などをやっているが、塾などで忙しくなかなか集まらない。

座長：これまでの意見をまとめる

- ①再掲の事業についての質問があった
- ②進行管理のスケジュールについて質問があった
- ③計画の効果測定についての意見があった
- ④老人クラブ事業の内容について質問があった
- ⑤子ども向け教室の立ち上がりのきっかけについて質問があった

座長：以上で議事を終了する。

6 事務連絡

7 閉会